
銀色の恋人

吟色の鬼姫

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

銀色の恋人

【Nコード】

N5246BA

【作者名】

吟色の鬼姫

【あらすじ】

銀時の幼馴染みであり、彼女でもある鈴野舞花。舞花は真選組に勤めていて、周りには土方、沖田、山崎(?)とイケメンぞろい。銀時は舞花を信賴してると言いつつもやっぱり心配。土方は、舞花を自分のものになりたいと近づいていく。沢山の人の気持ちがすれ違い少しじれったい物語。……………ええっと、少々キャラが壊れているかもしれませんが……………。

秘密の女の子

初めて投稿します（*^|^*）
面白かったら言いなあ

土方さんファンの人はお引き取りください。
銀さんと土方で一人の女の子の人を取り合うような場面もあったりする
ので。

あと、銀さんのキャラが少し壊れてるかも……

それでもいいのなら……

では、恋の季節…春のある日からスタートです！

「うつつ寒！」

新八は、夜の薄暗い道を万事屋に向かって歩いていった。
家にもって帰るのを忘れて、お通ちゃんのCDを取りに帰っている
のだった。
もうすぐで寺田屋につく。

つと、万事屋に続く階段の下に銀色の髪をした者が立っているのが
見えた。
誰なのかはすぐに分かる。

このあたりで銀髪といえば、彼しかない。

「銀さん、何やってんですか？」

「うわぁおう！あぁ、新八か。どうした…」

ビックリさせてやろうとひっそり後ろから近づいて話しかけると、思った以上に銀時は驚く。

そして…

「……………銀さん。後ろに一体誰がいるんですか？」

銀時は背中に誰か一人分のすき間を空けて、新八に見えないように立つ。

「いや、別に……………」

「バレバレですよ。だって足見えてますから。そんなガードしないで誰なのか見せてくださいよ」

新八はからかう。なかなか銀時をからかえる機会がないのだ。こういうときに楽しんでおかないと。

しかし、なぜそんなに見せたくないのだろうか。

「もう良いよ。坂田君」

「あれ、今の声…ま、まさか、女の人…？」

「でもよ……………」

銀時は後ろを少し振り返る。

その後ろから、女の人が出てきた。

新八の口はあんぐり…

「いつかはばれるはずだったのよ。仕方ないわ」
「な、な、何ですとお?!」

現れたのは、桃色のラインの入った白い着物を着た品のある女の人だった。

黒くてきれいな髪を肩まで伸ばし、優しそうな瞳。

銀時にはもったいないほどの美人だ。

「鈴野 舞花といいます。志村さんですよ、坂田君から聞いてます。えっと…ビックリさせてごめんなさい。私、真選組勤務で、あそこ恋愛禁止だから…秘密にしてたんです。…………ごめんなさい」

舞花と名乗った女の人はそういうと肩をすくめる。

新八は、勿論動揺。

「れ、恋愛って…まさか、銀さんの…?」
「交際してます……………」

そ、そんな……………

「ええええええええええ?! 銀さんに彼女?! そんなバカな!」
「静かに! 声デカイ新八!」

銀時と舞花が焦る。

しかし、新八は止まらない。

「聞いてませんよ、そんな設定!! ずるいですよ! 主人公だからって」

「だあかあああ! 俺たち以外誰も知らないの! スタッフも監督もみんな!」

「二人とも静かにいっ！聞こえちゃうよ！」
「鈴野もな！」

春の夜空に三人の声が響く。
そこにもう一人……。

「うるさいよ、近所迷惑考えなバカ共が」
「「「えっ」「」」

振り返ると、お登勢が寝巻き姿で立っていた。

「その女、誰なんだい？」
「「「……………」」「」」

舞花の正体は、すぐばれることになった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5246ba/>

銀色の恋人

2012年1月14日16時53分発行